

センター月だより

〒507-0034 多治見市豊岡町 55 まなびパークたじみ 4F TEL 0572-23-3455 FAX 0572-26-8813

指導日誌より

= 多治見地区 =

ゲームコーナーでひとりで遊んでいる小学生の女児がいたので声をかけると、離れたところに父親がいたので安心した。(10/7 小泉 5)

セガの店内にいたティアラ()を付けた女子3人が、気持ち良くあいさつを返してくれた。(10/14 精華 2) 冠形の女性用髪飾り

下校中の高校生や駅前の各商店街の方々にあいさつ、声かけすると明るい大きな声が返ってきて気持ちの良い巡回ができました。(10/14 南姫 9)

根本交流センターで多くの子どもたちに声をかけることができた。交流センターやコンビニの方からふだんの子どもたちの様子が聞けた。(10/16 小泉 10)

自転車に乗っている子どもたちにヘルメットを付けるように声をかけた。(10/16 脇之島 12)

学校帰りの高校生に声かけしたが、今回は挨拶が返ってこない生徒もいた。駐車場で遊んでいた小学生に、車に気を付けるように声をかけた。(10/18 共栄 3)

公園の子どもたちや学校で部活中の生徒からの返事が良かった。(10/25 北栄 1)

福祉センター 2階にいた高校生にいろいろな話が聞けた。「ここは楽器が自由に演奏できるのでうれしい。」と言っていた。(10/26 池田 6)

= 瑞浪地区 =

白山神社裏の公園で真っ暗の中、5人の高校生が遊具で遊んでいたため早く帰るように注意した。(10/7 瑞浪 A)

皆既月食の夜で、巡回中所々で月を見ている人が多かった。土岐川堤防沿いのベンチでも男女高校生が仲良く月を見上げていた。遅くならないようにと声をかけた。(10/8 日吉 I)

公園に2人の男女高校生がいたので声をかけ、早く帰るように話した。(10/14 土岐 C)

中学校校門で生徒会の「あいさつ運動」と一緒にあいさつ。先生たちも大勢みえて活気がありましたが、生徒たちにも照れがあり大きな声であいさつしてくれる生徒は少なかった。どんどん声をかけ顔も覚えて続けていけるといいと思いました。(10/15 陶 E)

10月声かけ活動の結果

	多治見地区	瑞浪地区	土岐地区	合計
指導人数	2	7	6	15
声かけ人数	566	92	193	851
指導員参加者	67	31	43	141

= 土岐地区 =

暗くなってきた中で、下校中の高校生が話し込んでいたので、早く帰るように声をかけた。(10/2 駄知 6)

駅前階段付近で7~8人の高校生グループが話し込んでいたが、特に問題は無かった。(10/7 土岐津 1)

中学生の下校時間に重なりたくさん声かけができた。日が暮れかかった中、公園で遊ぶ小学生にも帰るように声をかけた。(10/8 妻木 3)

榎公園前の住民の方の話では、最近はずく暗くなるので子どもたちがいても返って行くとのこと。30代の男性は子どもたちに時々注意をしているそうです。(10/8 泉 9)

駅前階段下で、一見して有職少年とわかる4名に声をかけた。3名は18才と答えたが、後1名は答えなかった。(10/8 特A)

寒い日だったためか、元気がない子が多かったが、あいさつをすればきちんと返してくれる子ばかりであった。車の通りも少なく、安全に帰れていた。(10/15 鶴里 4)

駅前駐輪場入口付近に座りこんでいた高校生3人に声かけ。肥田児童センターで小中学生の利用状況について情報交換できた。(10/16 肥田 7)

暗くなってきたので注意して巡回しました。中高生に「暗いから気を付けて」と声かけした。(10/24 下石 2)

一人でも大丈夫

ひとこと

7月に佐世保市でおきた女子高生による同級生殺害事件が私たちに問いかけたことは、子どもたちが社会や親の価値観と自分が直面する現実との違いに苦しんでいることに、大人が気づいていないということではないでしょうか。岐阜大学準教授で児童精神科医の高岡健さんは朝日新聞のインタビューで次のように語っています。

『今回の事件で「心の教育」の限界が指摘されているように、もっと根本的な土台から考え直す必要があるのではないのでしょうか。戦後教育は、個人が第一に優先されることを、本当の意味で教えてこなかった。

いま急ぐべきは、「集団から外れて一人になっても大丈夫」と背中を押してあげることだと思います。

LINEのいじめなど、IT環境が子どもたちの意識やコミュニケーションを悪い方向に変えた、と言われます。でも変わったのは手段だけ。皆が一人を攻撃する構造自体は同じです。そこを断ち切り、社会全体でも家庭でも、一人を前提にした連帯や豊かな関係性を具体的に築くことに、力を注ぐべきだと思います。』

佐世保の女子高生も、誰かがどこかで彼女のこころを受け止めていれば・・・。

センターから

11月は「子ども・若者育成支援強調月間」です。11月9日には恵那文化センターで「岐阜県青少年健全育成県民大会」が開催され、青少年育成に関わる県内の諸団体が集い、あらためて各々の活動の推進が決議されました。

各市では「強調月間」の啓発活動が行なわれています。当センターも11月8日に多治見市での活動として、多治見高校の生徒による吹奏楽演奏と司会進行でセレモニーを実施し、その後啓発活動を行いました。11月4日には瑞浪市で、11月14日に土岐市でも啓発活動が行なわれました。

日が短くなりました。「子どもたちが少なかった。」「出会えなかった。」という報告が増えてきました。声かけ活動の目的は、出来る限り多くの子どもたちに出会って声をかけ人間関係を築くことです。「暗いところに子どもがいなくて良かった。」...とは少し意味が違います。子どもたちのいる場所や時間帯に巡回できるように、もう一度見直しをお願いします。